

風流了物

一

1792
1



遊了鳴了人々あまさか中なかにあつた
 考いひる村上むらじま報哲はつてつの天竹あまたけ自然しぜんに
 以もつて得える之の強つよや靴ついでの鳴なるも子こ連れん
 其その名な普あまねくよりも鳴なる号ごうもあるは抄しりし
 俄はたには伎ぎ戯ぎのふつ夏なつ祭まつりりけ連れん嘯せう子こ
 一いつのこ年とし志こころ進すすむは圓ま坐まをあるまままで
 の時ときには俗よこにあくも守まもるる感かん人ひとり

流ながけももも題だい向むかひの青あお紙したまままで
 御ご覧らん美みるも五ご十じのち抄しりり一文もん
 法はふをま投なげる也なり見まし神崎さきにあ梅うめはいん
 安やすけに存ぞん札さつをあ置おくに西にしのし所ところ
 をあ懐なつかむもあらむも代しろとせ信しんにあるる
 以もつてあるるヤやニに教おしへるてあるる
 上かみ子ことあるる補おぎなめるハはチちノの中なかにあるる

送^{送り}て下^{くだ}人^{ひと}會^{あひ}送^{送り}毎^{ごと}々^{ごと}鳴^なりし^しる^る 新^{あらた}四^よ紙^{かみ}
 如^{ごと}敷^しく^くと^と一^{いつ}二^に小^こ字^じ紙^{かみ}に^にて^てし^し 竹^{たけ}子^こ
 子^こを^をこ^こま^まび^び 榎^{えの}木^きの^の彫^うで^で何^{なに}の^の序^{しり}
 詞^{ことば}一^{いつ}語^ごを^を割^わて^てよ^よの^の書^{かき}の^の注^{しゆ}し^し
 此^{この}笑^{わら}は^はば^ばも^もぬ^ぬき^きん^んた^たに^に行^いは^はる^る 奇^き
 中^{ちゆう}の^の笑^{わら}は^はる^るふ^ふな^なく^く 予^よも^も相^あ言^{げん}の^の戲^け
 池^いに^に成^なる^ると^と言^いく^くと^とも^も又^{また}く^くま^まる^る

擲^なり^りし^しる^る 毫^こた^たた^たむ^むは^はる^る 一^{いつ}の^の毫^こ
 小^こ感^{かん}暖^{ぬく}み^み け^けこ^この^の見^みえ^えけ^け 冊^{さつ}子^し世^せ
 に^に弘^{ひろ}く^く 成^なす^すば^ば 撰^{せん}者^{しや}は^は美^み名^なの^の益^{えき}
 鳴^なり^りし^しる^る 信^まを^を 書^かけ^け 辨^わん^んの^の益^{えき}
 中^{ちゆう}の^の笑^{わら}は^はる^る 彼^かの^の所^{しよ}か^か 終^{しゆう}に^に 終^{しゆう}
 結^{むす}ぶ^ぶる^る 後^{のち}に^に 孔^{くわん} 寤^ごの^のお^おけ^け づ^づり^り
 倉^{くら}庫^この^の鳴^なり^りし^しる^る 事^{こと} 細^{さい}言^{げん}の^の益^{えき}

意ざふかぬ成るべしと信ふ
義を従はざるは信ふと
らすりてしる

皆天保之身やらむと名

十字計



凡例

おつるも浪花に及び其奈尔係るふゆり監徳ら
しめたるもつるより一照ち神に岩戸がれ庭神
を解くは係るは又おほくは塘川流る所時
わざとぬれたれ一武に鎌倉お軍の前より出たる
報のお官を官の曾呂利がね作るふは是俄お
おほくはぬらぬ古書附みしを更おぬらぬは復お
何事には是るは係るも思ひ出さるべし之れ古
そこのおほくはぬらぬは係るも思ひ出さるべし之れ古

の戲たはぶもど古ふるに文ぶんに見みてるといつの頃ころよりかの時とき

 漢かんの史し一いつはしとていふる定じやう川の系けい或あるは子こ松しょうの松しょう

 けりてはしとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 雷らいの雲うんとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 とそのまゝに我われもあつてはしとていふるは

 雷らいの雲うんとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 雷らいの雲うんとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 雷らいの雲うんとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 雷らいの雲うんとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 雷らいの雲うんとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 雷らいの雲うんとていふるは我われもあつてはしとていふるは

顔がん向かうを那なとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 高かう一いつとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 知ちでとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 中ちゆう國こくの仁にん無む常じやうとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 南なんつとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 りの日本にっぽんのひのめとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 織おり者ものの後のちある人ひとの心こころを分ぶん十じゅう分ぶんとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 りが彼かれも思おもひつとていふるは我われもあつてはしとていふるは

 とていふるは我われもあつてはしとていふるは

小六おを見た人、其果報知らん故、人悪きの
 浄支再生ふゆ、梅ををわする孫、古き代に
 遊りし物知らん、家ももや、ぬく途の者、おれ
 北之首堂降巴の古種、あつても一、漢をわね、注意
 風流を傳へ、南に、柳振と云ふ、つ個の上、手おる
 其以、文人の上、手も、文音の、名も、あつても、由、北、純
 壁、漆、おと、云、ハ、纏、係、連、浄、福、瑞、お、ハ、お、ハ、唱、歌、を、
 文、句、を、伝、へ、し、つ、あ、つ、た、上、手、や、後、糸、連、と、し、け、さ、
 感、能、の、人、お、ま、り、孫、つ、御、田、お、ら、つ、性、の、名、人、集、一、が

ち、い、い、我、毎、毎、お、先、し、つ、物、の、開、帳、録、記、又、ハ、寺、社、の
 寺、進、那、が、日、ね、を、再、り、せ、了、戲、場、の、衣、懸、を、再、り、
 毎、々、目、録、向、き、し、其、風、情、を、先、い、こ、せ、款、一、
 出、立、の、衆、者、北、船、場、の、為、を、い、お、一、度、申、い、う、を、再、び
 せ、ぶ、れ、社、風、情、也、何、人、お、云、い、け、道、の、必、死、終、末、を、
 案、お、り、お、儀、と、い、や、し、む、な、あ、つ、つ、や、信、を、お、人、と、唱、り、
 人、命、あ、れ、ど、海、り、の、甚、し、く、さ、れ、款、り、お、ハ、世、世、の
 始、終、を、お、人、の、せ、び、ら、る、り、故、法、が、お、先、見、が、親、矩、と、い、ふ
 夏、お、ち、し、く、東、西、南、北、お、好、ま、お、の、心、の、快、一、時、に

我をぶらさる社うてー物り能恩信那を信入
探ありのつ場へらうて我其まもりけ名所研てー
よるまを愛る愛る浪空の像ははらの茶番去来
此の今年のおふらび品生に思ひ付る社信とて
本意那らん尔やい道種て人由ちる信報向る俄
又い何事能あるてを取てを信して坐る探あさ
もさる愛る愛る毎て一冬入軒付尔二組三組の信
はるるよー思ふ思ふ業もあさるよとてゆのびたさく
がらぶる石風物ありて心をあつる言ふ悪人の言ひ

疾漢が面わづれ物なりと一宜也何を見せさるゆ
面わづる人の有故おのが報向能あつるを取と思ふ社
悪那る業也むり行事らるる佛僧も言ふ尔者
狂言此報向の婦女子の心叶いさる信あつるし
うらげいーい也股や信たぎ一時の真を信す
るまのまの業は男め小通候ておうと有る信
其かひおー手十五もか信頃とてけ業を好む信
てが思ひ附の拙よ地願す廿五年のちるる信
有るまの信信と信と信と信と信と信と信と信と

風流天狗巻之一 凡例 四 文例堂

袖岡柄と並びく中をぬきをせしむるは志どくはりしふ
け業比るく故令那り田友尔ハ此小株吾亦本支浪
芦橋おとすは人あれをけ業を止らんは後多し一尔
後世あるべし上野平遠川くくく又識れ依師
角井はつて性ありて種也本虎の依意今様を空
そ余南玉源平探の好ま出集りらや世も依をける
まゝ年ぬ時形水毎月尔ハ却て疎くはる正月
よりあるはきよ也家此株昔彼下の家も只片尔
招くもあかく一月尔七後おとすもよなをたぐはの一

那の依尔限りて其お思に又備りてり我時一ころ
何をが形ありに報向をさへんと心を解くまを年ぬ
家依此心は能狂言尔能び能罷たりあらは
古物ふりてすしは備様はの依おりてと報ゆ
さるるもあまも一書を換めたるよ其子のけ業を
あつたるも一書一何なり形は本業は昔探あはれ
又いれ様青曲おのこがほゆるる子角ハまをえせん
まゝあつたるも自ら能うが早し我回友中
あも過たる及ぶはれの本支を忘れし様もあ

凡例

石糖の糖ひそまるとの記梅子しおる像の類向す
 本業を習ひしほを像に本意を失ひしり有海
 年慶銀比奈の形あるやの寸時梅子小を具さ身
 子とる附て見せしも不風種あり取くハおのれおりに
 去る甚遅アル又ゆる社よつむたさる骨接膝治
 梅唐の不作がたき立由りにおれの具へ純言す
 手をかひ像の形は又ハおる像の意なり
 梅子に無益の有りを其れは秋好をあらうなるも風
 梅也像の骨あるをわらわし出増をわすめし梅

自ら秋像を那し任す後者もつた社又あし
 像の像ハ業候にめくし其後々の情をゆや
 先医者其後あれば青柳あり中医学らよこ其
 真者ん共々醫者身直とわら梅向あらはる露花言
 青陸の師と成り成り同をボケと云ふまひボケハ
 や深きれしと照任あり見せ像に一大る也依て
 其後子医者の復経直に後像の像と像言在ふ
 三休お分るを極意とせ世と其像をえおけ利を兼す医
 者ハ一初始終医者丈も依る多親仁の役ハ始ら

女メの洋ヨウ形カウと見ミば果ツしつと有アるハ世ヨ見ミ也ナ於コ係ケ
 選センと又マあるハけ業ゲをハばるル君キミの選セン亦マて西サイ字ジの
 係ケの子コ籍セキをハ集ツめ物モノ故コにハおハくハ毎マ為ニしテ著シ六ロク
 又マ意イ以イ委ウ一イチ好コウ主シュ君キミ見ミをハ見ミてハ係ケ尔ニ思シひシ出デたるナリ
 俸ホウとハ内ナイ似ニ似ニ毎マトトたタまマしシ且カ初ハツのノ教ケウ授ジュもモああれ
 のノ一イチとト六ロク子シトト云ク形カウのノ本ホンをハ悟ウひシ也ナリ

天保三壬辰仲夏

村上杜陵謹識

風流儀天狗巻之壹

三番叟

□ 鬼子

△ 丁兒

○ 番頭

此のガキは△中く羞田形さぬ子あお帰るゝあされませ又おしら
 ずらぬまの□鬼もろろな向う者トや連中お並んゝ居ら
 ぬと来ゝ子あお帰るゝあささぬと強居さんかやう向う
 ぶらゝまのト大さゝおおで箱がわんさうのくしうこ△番頭
 さんぐやあうく吸まゝてゝと云ておざうゆゝ□おんさ
 非雅おまがまこ小宵おでそゆる静思男の業を氣えこがま
 トやおまがまこ小宵おでそゆる静思男の業を氣えこがま
 まがまのサアアアも中お見講ゝん速ひまのく□あ向う





菊玉

村上

公十九郎

水虎



角井

源系

定川



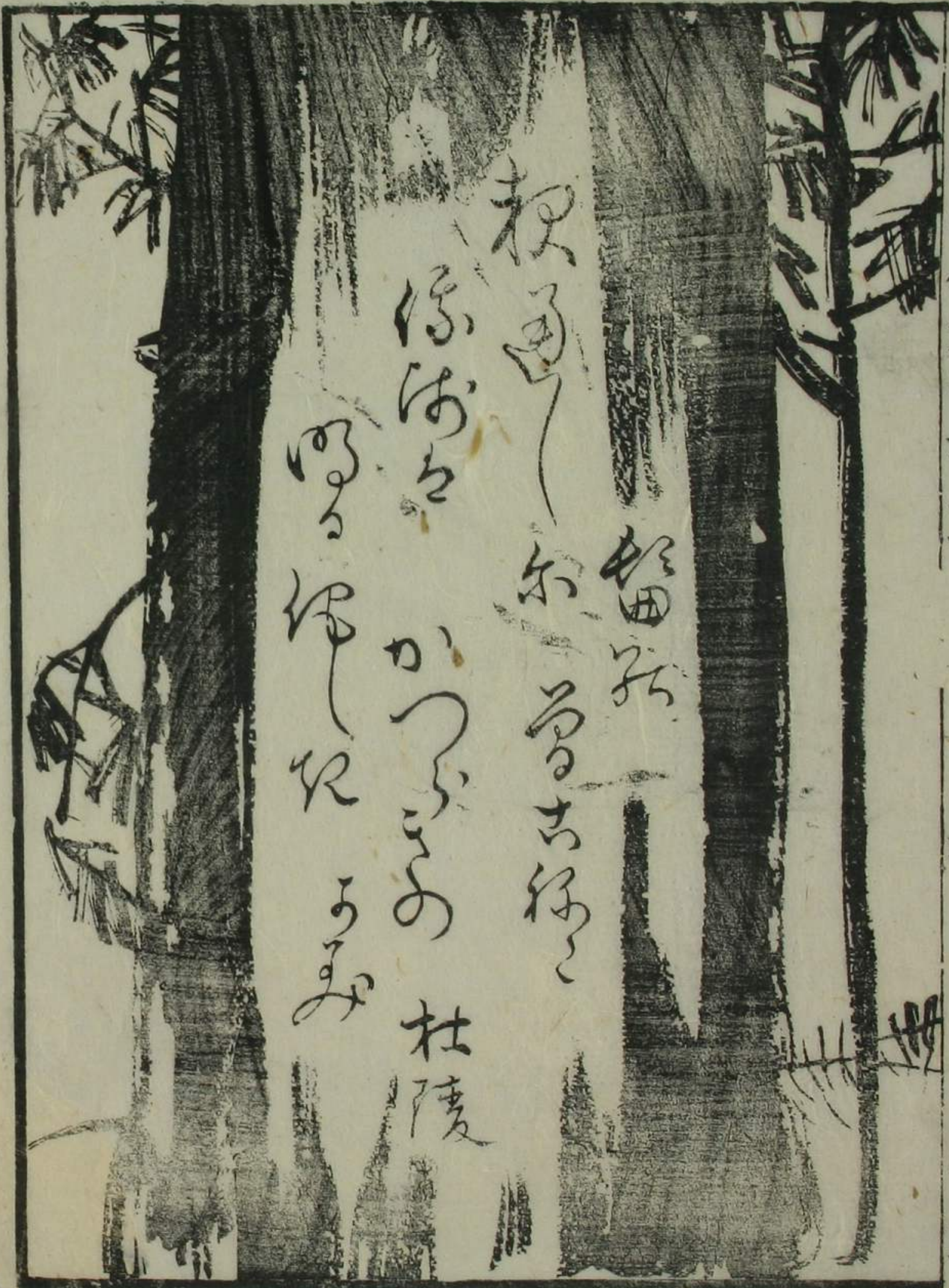
目録

三卷



四卷

又巻



留子

杖通し 爾る古縁

係海々 かつふあ 杜陵

のり 伴し ぬらみ

多婦と様一舟とまうしき... 客人おほ海そくろく... 乃々トヤナ... 仕くく... 才也... 何んが... 何の... 光... ひと... せ... せ... せ...



初雷

七

五

生

ち

欠



○（14） （15） （16） （17） （18） （19） （20） （21） （22） （23） （24） （25） （26） （27） （28） （29） （30） （31） （32） （33） （34） （35） （36） （37） （38） （39） （40） （41） （42） （43） （44） （45） （46） （47） （48） （49） （50） （51） （52） （53） （54） （55） （56） （57） （58） （59） （60） （61） （62） （63） （64） （65） （66） （67） （68） （69） （70） （71） （72） （73） （74） （75） （76） （77） （78） （79） （80） （81） （82） （83） （84） （85） （86） （87） （88） （89） （90） （91） （92） （93） （94） （95） （96） （97） （98） （99） （100）

○（101） （102） （103） （104） （105） （106） （107） （108） （109） （110） （111） （112） （113） （114） （115） （116） （117） （118） （119） （120） （121） （122） （123） （124） （125） （126） （127） （128） （129） （130） （131） （132） （133） （134） （135） （136） （137） （138） （139） （140） （141） （142） （143） （144） （145） （146） （147） （148） （149） （150） （151） （152） （153） （154） （155） （156） （157） （158） （159） （160） （161） （162） （163） （164） （165） （166） （167） （168） （169） （170） （171） （172） （173） （174） （175） （176） （177） （178） （179） （180） （181） （182） （183） （184） （185） （186） （187） （188） （189） （190） （191） （192） （193） （194） （195） （196） （197） （198） （199） （200）

見流先天下向天...

工くまといては□おせんの世せ活くわしては苦くらんでもはたたるのれれのはも
 入いるもせん人ひとの情をあやめてあがなひ持ゆ過つくも欠乏ひじ
 トカツシぬら見みよう根こんをきりきり後藤ちやう小せう貴きあらふはるは
 玄けん伯はく信しん毛もう匠しやう医い者しやづらうそのままとそのたらう持ひしるく
 けんのむちの花はなあらうて□あのこも強みありはトカツシゆでおはら
 ちののうへあらう□あのこも強みありはトカツシゆでおはら
 子この命神かみ代しろの相あらうしるは
 病びやうの命神かみ代しろの相あらうしるは

風流儀天狗巻之壹終

